



**N.S.ニュース速報A**

**NSDAP/AO : PO Box 6414  
Lincoln NE 68506 USA  
www.nsdapao.org**

#1136

22.12.2024 (135)

## 悪の天才の教育

ゲルハルト・ラウク著

パート2

\*\*\*\*\*

私の母方の家族にもいろいろなエピソードがある。

あなたの曾祖父は、あなたの曾祖母を連れてくる前に、まずアメリカに来ていた。彼は新感覚の食べ物を味わうために、特別な店に連れて行った。

彼は彼女に言った：吹いてごらん、熱いから！

彼女はそうした。

店の全員が笑った。そして、彼女はそれを味わい、微笑み、彼を平手打ちした。

アイスクリームだった。

\*\*\*\*\*

おばあちゃんは、玄関のポーチに座っているおじいちゃんに、夕食を食べに来なさいと声をかけた。でも彼は来なかった。それでおばあちゃんは私をおじいちゃんを迎えに行かせた。私はおじいちゃんがそこに座って、3人の若い女の子たちが通り過ぎるのを見ているのを見た。私はおばあちゃんに言った。おばあちゃんが出て来て、彼の耳を引っ張って家に戻ったの。

\*\*\*\*\*

お父様が高価な新品のパイプを叔父のひとりに見せたとき、叔父は誤解して贈り物だと思い、深くお礼を言った。お父さんは何も言う勇気がなかった。数年後、彼が亡くなった後、事情を知った家族がパイプを返してくれた。日曜日にしか吸わなかったという。

ウィスコンシン州の小さな町の人口の半分は、私の母と親戚関係にある。私の曾祖父には6人の息子がいた。私は彼らの古い写真を見て、私が母の父オットーにそっくりであることを確認した。オットーは旧国で生まれ、オットー・ビスマルクにちなんで名付けられた。

私の家系は両家ともドイツ系だ。父方はラウクとハイン。母方はPreussとPahl。ラウク家は、アメリカ独立戦争に従軍したヘッセン将校の兄弟にさかのぼる。ラオック」という名前自体は、西暦1050年頃に消滅した古高地ドイツ語にさかのぼる。

それから何年も経ってから、母は私の遠い親戚2人が9.11で亡くなったと教えてくれた。私はその2人に会ったことがなかったが、母は会ったことがあった。

他にも2人の替え玉の写真を見たことがある。さらにもう一人の替え玉は、私と一緒にバラックに滞在していた。彼は私と同じ身長だった！時々、他の客が私たち二人を取り違えていた。私は彼を囮として雇うことを考えた。

## 生き物捕り

オタマジャクシやカエル、カメを捕まえたり、木に登ったり、隣接する

野原や森を探検したりするのが好きだった。動物たちは私の大のお気に入りだった。

週末になると、父と私は「グレード」にカメを捕まえに行った。あるいは、私がひとりでカエルを捕まえている間、父は車の中で昼寝をしていた。

ある夏、私たち2人だけで何百キロもドライブした。ガラガラヘビを一匹も捕まえられなかったのは残念だったが、私はその収穫に満足した。

母がそのうちの1匹、小さな草ヘビの赤ちゃんをベッドで見つけたとき、ヘビたちは屋外に追放された。幸い、母は父が犯人だと突き止めた。父の不敵な笑みと、母の発見を聞いた私の恐怖の表情から、「どうやってそこにたどり着いたのか」という謎の解答はあまりにも明白だった。それに、まともな男の子なら、こんな愚かなスタントで完璧に良いヘビを失う危険を冒すはずがない！

古い炉の石油タンクを地下室（古い石炭シュートの下にあった）からやっと取り出したとき、私はノミとスレッジハンマーで縦半分に切った。時間はかかるし、うるさいし（！）、でもちょうどいい大きさのカメのタンクができた。

少年時代、そして10代の頃も、私は動物のフィールドガイドを読み漁るのが大好きだった。多くの亜種を識別することさえできた。

当然のことながら、我が家では長年にわたってさまざまなペットを飼ってきた。カエル、ヒキガエル、オタマジャクシ、魚、サンショウウオ、イモリ、鳥、リス、ウサギ、アライグマ、鶏、猫、犬などだ。

すべての種、亜種、品種をリストアップするには、もっと多くの木を犠牲にする必要がある。

我が家のガレージには、ヤマネコ、キツネ、フクロウに加えて、この辺りの町の人口よりも多くの猫が住み着いている。

私は昔から動物が大好きだった。

## 私は子どもの頃から軍国主義者だった

戦車と飛行機の戦いの絵を描くのが好きだった。本能的に、私は「利害の衝突」を引き起こさないような国章を選んだ。親族の気分を害したくな

かった。たとえ彼らが「間違った側」で戦ったとしても。

小さなプラスチックのおもちゃの兵士たちとの戦いは何時間も続いた。時には動物を徴兵することもあったが、その場合はいつも動物が主人公で、人間の兵士が敵役だった。

私は地下トンネルを完備した手強い砦を築いた。トンネルは汚れるのに大いに役立った。結局のところ、汚れないと楽しめないことは、どんな小さな男の子でも知っているのだ。

戦闘訓練では手作りの木刀や盾を使った。私は日常的に3人の子供を同時に相手にし、勝利していた。

**私は軍国主義者にもなった！**

世界史上の有名な戦いを描いた児童書は、私に強い印象を与えた。軍事史は、私の動物以外の大きな興味のひとつとなった。

父は私のために子供サイズの米軍ユニフォームを買ってくれた。両親に私の名前と「階級」の「大尉」を入れてもらった。それが擦り切れると、代わりのもので買ってもらった。その時、私はすでに「大将」になっていた。当然、私は「軍隊ごっこ」をするときはいつもそれを着るのが好きだった。

「敵は私に“ドリトル將軍”というあだ名をつけた。どうやら彼らは自分たちの歴史を知らず、単にその名前を面白がっていたようだ。

これらの軍隊は、単に「ゲーム」をするために「チーム」に分かれた「仲間」で構成されていたわけではない。私たちは自分たちを、係争中の領土をめぐる「敵」と「戦争」をする「兵士」とみなしていたのだ。

私たちの戦闘は、相手軍に土塊をぶつけるというものだった。この限られた戦いの結果、多少の痛みはあったが、大きな怪我はなかった。

一方、石を投げることは嫌われた。ジュネーブ条約違反に等しい。

敵」に大怪我を負わせるつもりも欲望もなかった！これらの「軍隊」は「ギャング」でも「チーム」でもなかった。その中間だった。

私はこの子供たちの軍隊に、単なるゲーム以上のもの、つまり社会的、いや人類学的な意味を感じている。

何度も戦ってきたベテランとして、私はこれらの弾丸をかわす技術がある程度身につけていた。残念ながら、私は射撃が下手だった。

戦いはたいがい輝かしい勝利に終わった。私は敵に真っ向から突撃し、フルボレーで打たれる痛みを耐えた。敵は恐怖のあまり逃げ惑う。

特にあるキャンペーンは、私たちのメンタリティをよく表している。

ある日、私たちはしばしば戦場となる“無人地帯”の小さな池に、奇妙な木製のいかだが浮かんでいるのを発見した。明らかに敵の侵入だ！私たちは沈めるために石を積み上げた。そして、岩の上で瓶を割って、割れたガラスが敵の船を引き揚げにくくするようにした。

数日後、敵のパトロール隊が引き揚げようとしているのを発見した。私たちが突撃すると、彼らは飛び立った。一人の哀れな悪魔を除いては。彼は池に張り出した木に登っていた。片手で枝につかまりながら、もう片方の手で私の部下と剣で戦っていた。私はその敵兵の勇敢さに感動した。

どうすればいいのだろうか？状況は危険に見えた。どちらの側にも深刻な怪我をする者はいない。しかし、たとえ激しい戦いの最中であっても、停戦を呼びかけることは前例がなかった。

私は部下に撤退を命じた。敵の司令官も私の行動とその理由を理解していたので、私たちの騎士道精神を利用しようとはしなかった。その代わりに、私が意図的に作らせた隙間からダッシュするよう、切り離された兵士に向かって叫んだ。彼はそれを理解し、実行した。

しばらくして、私はその勇敢なかつての敵に平和な状況で偶然出会った。私たちは友人になった。

初めて私を彼の家に遊びに連れて行ったとき、彼は玄関の前で立ち止まり、私に向かって言った：「君がプロテスタントだってことは、ママには内緒だよ。ママはプロテスタントはみんなブタだって言って、君と一緒に遊ばせてくれないんだ」。数年後、私は彼の母親自身の宗教団体であるカトリックが、全国レベルで「少数派」とみなされていることを知った。その地域ではそうではなかった。

父は息子たちをキャンプや釣り、カヌーに連れて行った。私たちが大きくなると、銃器の扱い方を教えてくれたり、狩猟に連れて行ってくれたりもした。

父が初めて私たち少年に銃の使い方を教え始めたとき、母はとても心配した。父は言った：心配するな！心配するな！正しい使い方を教えてくれる！

私のトレーニングはこんな感じだった。

狩猟を始めた最初の 年は、ボルトのないショットガンを携帯した。

フェンスなどを越えるときの安全性を学ぶためにね。

年目はボルトを手に入れた。でも薬莖はなかった！撃つたびに、私は父に薬莖をねだらなければならなかった。

3年目はボルトと砲弾の両方を持っていた。

もちろん、ショットガンもライフルも単発銃だった。それぞれ20ドルと30ドルだった。中古ではなく新品だ。

その後、私たちは銃を交換した。彼がストックを長くしたとき、防寒着を入れるのを失敗したんだ。彼はまた、私の単発銃の軽い重量を好んだ。私はダブルバレルの方が反動が少ないのが気に入った。

数年後、友人の元警察官が私の新しいリボルバーを見たいと言ってきた。私はリボルバーを引き出しから取り出し、シリンダーを開けて弾丸を取り出し、弾丸を引き出しに戻した。- これで彼は感心した。

ここで教訓的な話をしよう：安全対策は万全だったにもかかわらず、父は散弾銃が爆発して車の屋根に穴を開け、頭を吹き飛ばしそうになったことがある！父はこの事実を私に指摘し、銃がいかに危険かを思い知らされた。そして、常に細心の注意を払うことがいかに大切かを教えてくれた！

男たち」はカナダまで3週間のカヌー旅行を繰り返した。私たちは遠く離れた場所にいたため、道路やその他の文明の痕跡はなかった。カヌーを漕いで湖を渡り、未舗装の道を「ポーテージ」して次の湖まで行き、それを繰り返さなければならなかった。

以下の物語はすべて、こうしたカナディアン・カヌーの旅から生まれたものだ。

私が同行する前のある旅行で、兄弟の一人が足の指をやられた。乗組員には他の大人の家族もいたが、彼を文明に戻す時間がなかった。そこで彼らは彼をウイスキーで酔わせ、銃剣を焚き火で消毒し、成人男性3人を彼の胸の上に座らせた.....そして父はその銃剣で彼の足の指の一部を切り落とした。

父は公式の衛生兵だった。父によると、自分の父は軽い怪我をしたとき、いつも同じ2つのステップを踏んでいたという。まず、何が起こったのかを聞く。次に、傷口に噛みタバコを塗る。そんな訓練を受けた父が、エンジニアではなく、有名な外科医にならなかったのが不思議なくらいだ！

それにもかかわらず、彼はどうにかして地面から30センチ浮き上がった

という。そして、湖を挟んで20マイル離れた場所に住む人々は、後に彼の悲鳴を聞いたと証言している。

この旅に参加しなくてよかった。最初の2、3回の旅行では、私はまだ若すぎると判断され、同行できなかった。

\*\*\*\*\*

私たちは、鑄鉄製の薪ストーブとトイレが完備された、廃墟と化したレンジャーの丸太小屋を発見した。ここが私たちのベースキャンプとなった。

父は息子たちとある約束をしていた：食いたいものは何でも買ってやるが、お前がそれを運ばなければならない！- 私たちは腰を折ったが、王様のように食べた。

ポーターでは、兄はカヌーを担ぎ、バックパックも背負っていた。彼は自分がかかなりタフな男だと感じていた。

すると、後方から足音が急速に近づいてくるのが聞こえた。

次に見たものは、彼を驚かせ、感動させた。

誰かが彼の横を通り過ぎた。走る。カヌーを担ぎ、胸と背中に2つのバックパックを背負って...

女性だった！

ポーターの終点で彼女と話し、彼女がプロのダンサーであることを知った。

数年後、私も同じような経験をした。私は重労働をしていた若者だった。前任者は65歳だった。

\*\*\*\*\*

蚊に文句を言うな！刺された感じはしない。もうカヌーを運ぶのが嫌だから、作り話をしてるだけだろ！

イライラした父が弟のひとりにそう吠えた。

しかし、カヌーを運ぶ番になったとき、彼は真実を知った。

カヌーの下には蚊が群がっていた。彼らは容赦なくカヌーを運ぶ哀れな悪魔に襲いかかった。彼は両手がふさがり、彼らを叩くこともできなかった。

\*\*\*\*\*

まだ少年だった頃、日記を書こうと考えた。しかし、私はそれを断念した。私の人生で最も興味深いことはすでに起こったと思ったからだ。

だからといって、将来のことを考えなかったわけではない。私は父とある約束をした。私が十分な年齢になったら、カナダの荒野に移り住み、罫猟師になるのだ。エンジニアである父は、丸太小屋の建て方を教えてくれた。報酬はウイスキーと葉巻で支払う。

\*\*\*\*\*

ある日、政府が土地収用権を行使し、高速道路建設のために私たちの土地を安く買い叩いた。ブルドーザーが私たちの果樹園を荒らし始めたとき、私は弓矢を持ってドアに駆け寄った。家を守るつもりだった！両親は私を止めた。両親は私を部屋に閉じ込めた。

やがて裏庭に高速道路が走るようになった。その後、状況は一変した。当時は考えもしませんでした。このことが我が家の再販価値を大きく下げたことは確かです。

その後、父は転職し、私たちは引っ越した。

## プレティーン&ティーン

私は西部で育った。人生の半分をここで過ごしてきた。

庭の端まで行ってフェンス越しに手を伸ばせば、隣の牧場の馬を撫でることができた。カウボーイ志望の若者たちと同じように、私は屋外で多くの時間を過ごした。しかし、本を読むのも好きだった。

私の家族は大家族だった。しかし、その家族が持っている学位の数を合わせると、さらに多くなる。まだ小学生の頃、父は私にごく基本的な数学の概念を教え始めた。

父はよく子供たちを取り違えていた。間違った名前と呼ぶのだ。それがいつも母を困らせた。しかし父は、すべて母のせいだと主張した。結局のところ、母が子供たちに名前をつけるよう主張したのだ。彼は子供たちに番号だけをつけたかったのだ。有名な探偵チャーリー・チャンのように。

さらに、私の家では男の子の名前に叔父の名前をつけることが多かった。私の祖父が埋葬されたとき、父は弟をうながし、近くにある、しかしとても古い墓石を指さした。そこには3人の兄弟と同じ名前が刻まれていた！彼の名前は一番上にあった。それ以来、父は弟たちにこう言った：俺が墓石の一番上だ！

でも、誤解しないでほしい！私の家族はとても「庶民的」だった。父に会えば、大学教授というより牧場主だと思っただろう。彼は他の教授たちと同じように管理人ともうまくやっていた。もしかしたらそれ以上かもしれない！

何年も後、FWはこの管理人からライフルを購入した。彼はそのライフルを自作し、“Old Meat On The Table”という名前までつけていた。父はその精度を試すために射撃場に行った。彼は100ヤード以上離れた標的に向けて3発撃った。3発の弾丸は、25セント硬貨で3発の弾痕を同時に覆い隠すことができるほど近くにまとまっていた！- もちろん、銃身が冷えるのを待つため、弾と弾の間は10分ほど空けた。

私はまだ子供の頃からチェスを習っていた。私は2つのことをするまで、相手をチェックメイトしようとはしなかった。まず、相手の駒をひとつ残らず取る。次に、残ったポーンを使ってクイーンと両方の城を取り返す。明らかに、このやりすぎは徹底的であると同時に非効率的だった。

私の兄弟の一人が、非常に熟練したチェス・プレイヤーを5分以内に破り、皆を驚かせた。彼は得意の電光石火のクイーン攻撃を使った。相手は複雑な作戦を実行するのに夢中で気づかなかった。

中学生の頃、私はよくチェスをした。ほとんどいつも大学生や教授と。だいたい3局中2局は勝っていた。最後の3局は父に勝った。その後、私はチェスに興味を失った。あまりに静的だったからだ。本当に優れたプレイヤーは、チェスの本から古い手を暗記しなければならなかった。私には向いていなかった。

最後に笑ったのは父だった。文字通りのチェスの天才を連れてきて、私を叩きのめしたのだ。当時、私は肝臓の感染症で犬のように病んでいた。何カ月もの間、私は紅茶とバターなしのトーストと卵だけで生活していた。完治するまで何カ月もかかった。フェアな戦いとは、こういうことなのか！

その後、彼はチェスプレイヤーには3つのレベルがあると説明してくれた。

彼のような一流選手には戦略がない。

私のようなセカンドレベルの選手の戦略は一つだ。

第3レベルのプレイヤー、すなわちチェスの天才は、複数の戦略を持っている。彼は一手打つごとに状況全体を再評価する。そして最善の戦略を選択する。(レベル2のプレイヤーがこれをやろうとすれば、通常の結果はカオスである)。

しばらくの間、家族はまだトランプをしていた。でも、地元の人たちは私たちが知っているような旧世界のゲームを知らなかったから、他に遊ぶ相手がいなかった。

父は私たち全員をダンスクラスに入れた。フォックストロットとワルツを習った。これは私たち若者には役に立たなかった。(私たちは小学校ですでにスクエアダンスを習っていたのだから)。

思春期は他の誰よりも難しくもなく、楽でもなかった。でも違った。10代の「反抗期」はなかった。家族と民族的な絆のおかげで、私は「同調圧力」とは無縁だった。私はアウトサイダーだった。私の基準は単に異なっていた。

父が私にこう言ったことがある：お前のおじいちゃんも私も、自分たちの(それぞれの)世代をあまり高く評価していなかった。お前も同じだ。- これは侮蔑でも傲慢でもなかった.....数年後、亡命したロシアの貴族が同じようなことを言っているのを聞いた。

と言う代わりにもし他の子供たちが崖から飛び降りたら、あなたも同じことをする？ 良いドイツ人は崖から飛び降りない！- これはとても効果的だった！

私はすでに、弱さや痛みを見せないことを学んでいた。これは苛めっ子たちを勇気づけるだけだった。高校在学中に、私はさらに一步踏み込んだことをした。心理学で2つの実験を行った。

最初の実験では、相手を殴るか引くかのギリギリの状態に保つ。挑発的な発言と和解的な発言を交互に繰り返すことで、このバランスを保った。

2つ目の実験では、嘲笑は実はただの友好的なからかいだと思ったふりをした。最初は相手が混乱した。そして、実際の否定的な意図を説明しようとして、相手を苛立たせた。最後に、彼は私が彼をからかっていることに気づいた。彼が私を怒らせる代わりに、私が彼を怒らせたのだ。

これが彼を怒らせた。私は力づくでも否定的な言葉を使うことなく、攻撃者に攻撃を跳ね返したのだ。これは現実的、倫理的、さらには美学的な理由で私を喜ばせた。

私は高校のジャーナリズムの授業が好きだった。第一に、先生がかわいかった。次に、書くことが好きだった。

一度だけ、学生教師をダンスに誘ったことがある。これは変態的なセックスのことではなかった。単純に、同年代よりも彼女と同年代（およびそれ以上）の人たちの方が親近感が湧いたんだ。それに、彼女は美人で、ミニスカートの脚がとても似合っていた。

数年後、私は似たようなことをした若い女性に出会った。ただし、彼女の場合は変態的なセックスだった。女の子は男の子より早く成熟する。そして、欲しいものを手に入れるのがより巧みなのだ。

政治的・社会的見解を測るために作られた専門的なアンケートを発見した。クラス全員がこの調査を受け、私は集計と分析に膨大な時間を費やした。

この調査の興味深いところは、それが線という一次元のものではなかったことだ。二次元、つまり平面だったのだ。x軸と「y」軸があった！伝統的なイデオロギーの座標が表示された。保守派と共産主義者は「x」軸では離れていたが、「y」軸では接近していた。リベラルとファシストは「y」軸では離れていたが、「x」軸では近かった。

これは、そうでなければ根本的に異なるイデオロギーの間に、時として不思議な共通点があることを示している。（私の座標軸は、他の誰ともかけ離れていた）。

それ以上に、私は後に大学の倫理の授業で、2人の人間が2つのまったく異なる理由で同じ答えを出す可能性があることを観察した。同じカテゴリーでひとくくりにするのは極めて不正確である。

例を挙げよう。

私の大学の倫理学の教授は、自身の倫理的ジレンマを授業で話した。

第二次世界大戦末期、私はガタイのいい若い中尉だった。ヘルメットは私の頭には大きすぎた。私はジープでドイツ軍の戦線に向かい、降伏を交渉する任務を与えられた。私は数人の部下を連れて行った。

私のジープが停戦の白旗を掲げてドイツ軍戦線に到着すると、SS隊員たちは私に気の利いた敬礼をしてくれた。道を少し行くと、ドイツ兵が運転するトラックに出くわした。トラックの荷台には強制収容所の囚人らしき人たちが乗っていた。

私たちが見えなくなった直後、機銃掃射が聞こえた。ドイツ軍が捕虜を殺しているのだらうと思った。私たちは、振り返って彼らを助けようとするべきかどうか議論した。

私は止めた。ジープに乗っていた数人の私たちでは、どうせ彼らを救うことはできないだらうと思ったからだ。しかし、降伏の手配をするという私たちの任務が遂行されなければ、戦闘が再開され、さらに多くの人々が殺されるかもしれない。

私は正しいことをしたのだらうか？

授業が終わって廊下で彼に会ったとき、私は彼を慰めた：あなたは正しいことをしたと思う。もっと多くのSS隊員が負傷していたら、とても残念なことだった！

一瞬、困惑の表情を浮かべた。そして微笑んだ。おそらく、誰に言われたのかがわかったのだらう。

高校は退屈だった。いつも自習室で宿題を終わらせるようにしていた。そうすれば、夜に大学レベルの本を読む時間ができた。たいていは哲学や歴史、それに政治関係の本だった。優等生であることは自明だった。

サマースクールのおかげで、4年生をスキップすることができた。

日間で1学期分の授業を終え、4日目にテストを受けたら「A」だった。

高校在学中に、株式市場の操縦法に関する大学の講義を聴講した。私もやった。1年目は注意してお金を稼いだ。2年目はブローカーの言うことを聞いて損をした。少なくとも、女子学生にはいい印象を与えた。

父がNASAでスペースシャトルの研究をしていた頃、私はある夏を父と過ごした。私たちは大学のすぐ隣にある集合住宅に滞在した。私はプールの周りをぶらつくのが好きだった。チェスをしたり、ビキニ姿の若い美女を眺めたりした。時々、彼女たちは私とチェスをした。しかし、彼女たちは“ズル”をした。つまり、チェス盤の上にかがみ込んで、胸の谷間で私の気をそらそうとするのだ。これは半分成功した。そう、私は

見た。いや、勝たせなかった。

米国の陸軍士官学校のひとつに指名されたことは、私にとって大きな収穫だった。しかし、率直に言って、それは家族のコネとベトナム戦争の不人気によるところが大きかったと思う。私の両親は議員や上院議員、知事とファーストネームで呼び合う間柄で、時折家に立ち寄ってくれた。

私が彼のオフィスに入ったとき、米陸軍士官学校に推薦されるための検査をしようとしていた軍医が、私を一目見て言った：君は軍人の家系だね？- 私はどう答えていいかわからなかった。一方では、たしかに私の家族には軍人が多かった。しかも、私の家系はとても “民主的” な家系で、戦争になると近親者が両陣営で戦うことがよくあるんだ！

いろいろなことに興味はあったが、職業として魅力を感じるものはなかった。ヨーロッパの基準で「教養がある」と見られるために、州立大学に2年間通った。しかし、学位取得を目指すのではなく、好きな科目や役に立つと思われる科目だけを履修した。その中にビジネスは含まれていなかった。

専攻していた外国語の単位は学士号を取得するのに十分だったが、学士号を取得するためには、あと2年間「何もないコース」を取る必要があった。私には意味がないと思った。私が好きだった科目には、哲学やクリエイティブ・ライティングがあった。

もちろん、大学で一番楽しかったのは、ガールフレンドとイチャイチャすることだった。

当時は、ローンや助成金なしで 大学を卒業することも可能だったし、珍しいことでもなかった！私はそうした。

今の学生はかわいそうだ！



**NS KAMPFRUF**  
KAMPFSCHEFT DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN  
ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFBAUORGANISATION

November 1944      Gründung 1973      26. April 2017 (100)

**Der Kampf geht weiter !**

Kehring führt nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 die antisemitische Bewegung wieder als „Kampf in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!“

Mehrheit von Holocaust, Verleumdung, Verfolgung und Verdrängung haben nicht umgebracht, das Kreuz der goldenen Ähren hoch gehalten Führer Adolf Hitler zu entdecken.

Alle Nationalsozialisten sind sonstige antisemitische Tölpel und Rassenpropagandisten sollten sich schämen an Kampf um die Erhaltung unserer weißen Völker.

Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Größe des hochgelobten Volkstums ist heute noch viel größer als in der Vergangenheit.

Ein unvermeidliches Gegenstand ist allen Völkern, das Volkstum – gegen alle weißen Völker (1) zu kämpfen. Seine Mittel sind Erziehung, Überlebenskampf und Rassenwettbewerb.

Ob „legal“ oder „illegal“, ob im Wahlkampf oder im Brautwerbung, ob im Propagandakrieg, bewacht oder auf einem Schlachtfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hitl Hitler!  
Gerdhard Lauth



**TROTZ VERBOT NICHT TOT!**



N.S.ニュース速報A  
[www.nsdapao.org](http://www.nsdapao.org)  
#1005      19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート  
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものですね。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続いています。主に Adolf Hitler and the Army of Mankind ([www.mourningtheancient.com/truth.htm](http://www.mourningtheancient.com/truth.htm))に集中して取り組んでいます。現在21ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の勃発は、まさに情報の地獄絵図です。1つのことについて情報を控えても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the **NEW ORDER**  
Number 170 (197)      Founded 1973      April 26, 2022 (173)

**The Fight Goes On !**

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture denigration, and re-education.

Whether "legal" or "illegal", whether in election battle or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind every National Socialist must do his duty!

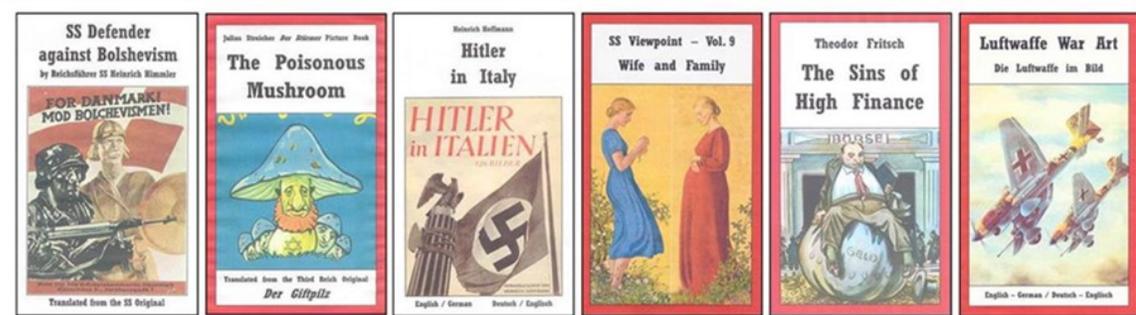
Hitl Hitler!  
Gerdhard Lauth



**TROTZ VERBOT NICHT TOT!**

# NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物  
多くの言語の何百冊もの本  
多くの言語の何百ものウェブサイト



**BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!**  
[www.third-reich-books.com](http://www.third-reich-books.com)



**NSDAP/AO**  
**Fight Back!**



[nsdapao.org](http://nsdapao.org)  
Contact us to  
find out how  
YOU can help!